

## 令和 7 年度 市総合学力調査について

## 1 目的

- ・知識・技能と思考力・判断力・表現力を一体的に調査し、その結果個票に基づいて教職員、児童生徒及び保護者が学力の状況を具体的に把握するとともに、児童生徒個々の調査結果に応じて苦手な部分を補う復習問題を紙媒体及び AI ドリルで提供することにより個別最適な学びを推進する。
- ・調査結果の分析研修を通して、異なる学力層への具体的な手立てを検討し、授業改善につなげることで、指導と評価の一体化を図る。

## 2 実施時期及び実施校

令和 7 年 1 2 月 2 日（火）～ 4 日（木）

四街道市内全小学校 1 2 校

四街道市内全中学校 5 校

## 3 調査事項

## (1) 教科に関する調査

- ア 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- イ 国語、算数・数学及び英語は、冊子を用いた筆記方式で実施する。  
ただし、点字問題については、点訳をすることとする。
- ウ 出題範囲は、調査する学年の 1 0 月までに含まれる指導事項とする。
- エ 出題形式について、選択式その他、短答式や記述式の問題を一定割合で出題する。
- オ 教科に関する調査の一部として、主体的に学習に取り組む態度についてのアンケート調査を実施する。

## 4 評価方法

全国平均との相対比は加味せず、正答率のみをもって判断する。

80%（点）以上	A判定	身に付いている、高い傾向にある
60%（点）以上 ～80%（点）未満	B判定	概ね身に付いている、概ね理解している
60%（点）未満	C判定	課題がある、低い傾向にある

## 令和 7 年度 市総合学力調査 結果

## 【小学校】 正答率（得点）

		国語	算数
1 年生	全国平均	B	A
	市平均	B	A

2 年生	全国平均	A	B
	市平均	A	B

3 年生	全国平均	B	B
	市平均	B	B

4 年生	全国平均	B	B
	市平均	B	B

5 年生	全国平均	B	B
	市平均	B	B

6 年生	全国平均	B	B
	市平均	B	B

## 【中学校】 正答率（得点）

		国語	数学	英語
1 年生	全国平均	B	<u>C</u>	B
	市平均	B	<u>C</u>	B

2 年生	全国平均	B	<u>C</u>	<u>C</u>
	市平均	B	<u>C</u>	<u>C</u>

## 令和 7 年度 市総合学力調査 結果の概要

## 小学校調査結果より

- ・ 正答率をみると、国語について第 2 学年、算数において第 1 学年において高い傾向にあり、それ以外の学年においては、学習内容が概ね身に付いているという結果となった。
- ・ 国語、算数ともに、「知識・技能」の領域においては、比較的高い傾向にある学年が多いものの、出題形式においては「記述式」、領域においては「思考・判断・表現」で課題が見られる。
- ・ 国語では、「話すこと・聞くこと」の単元で、ほとんどの学年が高い傾向にあるが、「書くこと」、「読むこと」の単元では、多くの学年で課題が見られる。
- ・ 算数では、学年が上がるにつれて、正答率が下がる傾向にあるが、単元別ではどの単元においても比較的高い傾向にある。第 4 学年までは「データの活用」において正答率が高く、第 5 学年、第 6 学年では「測定・変化と関係」の正答率が高い。

## 中学校調査結果より

- ・ 正答率をみると、国語及び第 1 学年の英語において、学習内容が概ね身に付いているが、数学及び第 2 学年の英語においては、課題がみられるという結果となった。
- ・ 国語では、小学校と同様「書くこと」、「読むこと」の単元において、すべての学年で課題が見られる。
- ・ 数学では、すべての学年において、「知識・技能」及び「思考・判断・表現」に課題があり、「図形」や「関数」など多くの単元で課題がある。第 1 学年においては、「数と式」についても課題がある。
- ・ 英語では、第 1 学年において特に「聞くこと」の単元で高い傾向にある。第 2 学年においては、「読むこと」、「書くこと」など多くの単元で課題が見られる。特に「記述式」の出題形式、「思考・判断・表現」の領域に課題がある。

## 授業改善のポイント

### ■小学校 国語科

#### ○指導改善のポイント

##### 領域

- ・ 話題や重要な言葉に着目してメモを取りながら内容を整理して聞き、聞いた内容と選択肢のどの部分が合っているのかを根拠に基づいて説明する活動を取り入れる必要がある。
- ・ 漢字の読み書きや文法について、文章の中での意味や使い方を確認するとともに、短文作成や音読などを通して繰り返し活用する活動を取り入れる必要がある。
- ・ 文章中の言葉の意味やそれぞれの段落の関係を捉えながら内容を整理し、文章や図、会話の内容を根拠にして、登場人物の心情や人物像を説明し合う活動を取り入れる必要がある。
- ・ 文章や資料、話し合いの内容を関連付けて必要な情報を整理し、目的や相手を意識しながら、表現の工夫や効果を考えて文章を書き直したり伝え合ったりする活動を取り入れる必要がある。

##### 学習形態

- ・ 音読、線引き、抜き出し、メモなどの学習活動を授業の中に位置付け、児童が目的をもって主体的に学習に取り組む態度を育成する必要がある。
- ・ 一人で考える時間を確保した上で、話し合いや発表を通して考えを共有し、多様な考え方に触れながら理解を深める学習活動を充実させることが重要である。
- ・ 自分の考えや感じたことについて、本文や資料のどの部分を根拠にしたのかを、ペアやグループで説明し合う活動を通して、根拠を基に伝え合う力を育成する必要がある。

##### 授業展開や図書館との連携

- ・ 教科書に出てくる言葉や語句について、意味や使い方を文脈の中で理解できるよう、継続的に指導する必要がある。
- ・ 文章や資料の内容を、既習事項や生活経験と関連付けて考えられるようにし、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動を充実させることが重要である。
- ・ 学校図書館や図書館司書と連携し、多様な本や資料に触れる機会を確保することで、児童の読書活動や情報を活用する力の育成につなげることが重要である。

## ■小学校 算数科

### ○指導改善のポイント

#### 児童の実態把握と指導と評価の計画

- ・児童の学習内容に関する情意面や既習内容の習熟度等を定期的に把握し、小单元ごとに指導方法や学習形態を工夫する必要がある。
- ・指導者が数单元全体の学習内容を客観的に把握し、児童に学習のつながりを意識させることが大切である。
- ・单元ごとに学級の実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。

#### 授業展開と学習形態

- ・場面や内容の理解につながるように素材（課題）の提示について、ICT機器や掲示物を活用するなどの工夫をしていく必要がある。
- ・本時の目標を踏まえた「学習問題」や「まとめ」となるように構成し、児童が学習内容や学習過程を振り返る場面において、学習問題に即して自分の言葉でまとめを書くことができるよう、授業の流れがわかる板書を作成することが大切である。
- ・児童の実態を把握し、内容に応じてペアやグループでの学習の時間や個別指導の時間を取り入れるなど、個に応じた指導の充実を図ることで、全体の習熟度向上を図ることが大切である。

#### 「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・自分の考えを持たせるために、見通しを全体で共有したり自力解決の時間を確保したりする必要がある。
- ・話し合いにおいて目的や視点、進め方を明確にしたり、わかりやすい資料の作成について指導したりすることが大切である。

#### 領域

- ・「数と式」については、数の意味や性質の理解を基に、四則計算の確実な技能を身に付けさせ、計算の仕方を考える力や、他者に説明する力を育てることが重要である。
- ・「図形」については、図形の性質や構成要素を具体的な操作や観察を通して理解させ、見通しをもって思考する力を育て、理由を明確にしながら考えを説明する力の育成が重要である。

## ■中学校 国語科

### ○指導改善のポイント

#### 領域

- ・ 語句や文の意味・用法を文脈の中で理解できるよう継続的に指導することが重要である。また、「いつ、どこで、だれが、なにを、どのように」などに着目し、文章構造を捉える力を育成する必要がある。
- ・ 目的や場面に応じて意見を伝え合い、考えを深める活動を充実させることが重要である。また、文章や資料を根拠として、自分の考えを論理的に説明する活動を取り入れる必要がある。
- ・ 読み手や目的を意識し、自分の考えと根拠を関連付けて書く指導を充実させることが重要である。その際、本文や資料を基に考えを形成し、推敲する活動を取り入れる必要がある。
- ・ 文章の内容や構成を的確に捉えることができるよう、音読等を通して学習内容を把握し、見通しをもたせることが重要である。また、線引きや抜き出し等の活動を通して、根拠を基に考えを形成する学習を充実させる必要がある。

#### 学習形態

- ・ 授業の導入で音読や範読を取り入れ、本時の内容や課題を把握できるようにし、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにすることが重要である。
- ・ 文章中の重要な叙述に線を引いたり、必要な部分を抜き出したりする活動を通して、本文を根拠として考える習慣を育成する必要がある。
- ・ ICTを活用して考えや根拠を共有・可視化し、生徒の思考の整理や学びの深化につなげることが重要である。

#### 授業展開や図書館との連携

- ・ 学習の目的や意義を理解し、自ら課題を見いだして学習に取り組めるよう、既習事項や生活経験と関連付けることが重要である。
- ・ 語句や漢字については、意味や使い方を文脈の中で理解できるよう継続的に指導する必要がある。
- ・ 学校図書館や図書館司書と連携し、多様な資料に触れる機会を確保することで、生徒の読書活動や情報活用能力の育成につなげることが重要である。

## ■中学校数学科

### ○指導改善のポイント

#### 生徒の実態把握と指導計画

- ・生徒の学習内容に関する情意面や既習内容の習熟度等を定期的に把握し、小单元ごとに指導方法や学習形態を工夫する必要がある。
- ・学年の実態に合わせた指導計画を作成する必要がある。

#### 授業展開と学習形態

- ・既習事項との違いや生徒の疑問点等から学習問題を設定することで、主体的に学習課題を追求しようとする態度を育成することが重要である。
- ・小学校で行ってきた学習の流れを意識した授業展開にしたり、生徒が主体的に学習できる授業について生徒とともに考えたりして、毎時間の授業の充実を図ることが大切である。
- ・生徒の実態を把握し、内容に応じて習熟度別指導や個別指導の時間を取り入れるなど、個に応じた指導の充実を図ることで、全体の習熟度向上を図ることが大切である。

#### 「思考力・判断力・表現力」の育成

- ・授業では問題解決型学習を取り入れ、多角的に考える力を養い、多様な表現や図表で視覚的理解を促すとともに、生徒同士の対話で思考を深め、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。
- ・日常事象や数学の事象から問題を見だし、生徒が図や言葉、数、式、表、グラフなどを用いて解決する場面を設定し、数学的活動に取り組めるようにすることが大切である。

#### 領域

- ・「数と式」については、数量関係を式で的確に表す力を育て、計算技能の確実な定着とともに、式の意味理解を深め、根拠をもって考え判断し表現する力を養うことが重要である。
- ・「関数」については、具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を取り出し、それらの関係を見出す活動を取り入れたり、変化や対応関係を捉え、式・表・グラフを関連付けて理解させ、規則性について説明する場面を設定したりすることが重要である。

## ■中学校外国語科

### ○指導改善のポイント

#### CEFR A1レベルの達成

- ・既習の言語材料を選択・活用し、自分の考えや気持ちを伝え合ったり、コミュニケーションを継続したりして対話を深めながら、中学校卒業時の到達目標（CEFRのA1レベル）を達成していくことが求められる。

#### 小中の学びの連続性

- ・小・中の学びの連続性を踏まえた指導の充実や学習内容や学習状況を共有することが求められる。

#### 領域

- ・一連の単元や題材で「知識・技能」を習得する場面と「思考・判断・表現」する場面をバランスよく取り入れ、題材内容を広げ深める必要がある。

「知識・技能」では、語彙や表現、文法等の知識については、繰り返しの学習により定着を図り、既習の言語材料を選択・活用しながら、学習を深めていくことが重要である。

「思考・判断・表現」では、言語活動の場面を設定し、概要をとらえる活動をしたり、空欄の吹き出しなどを作り、英作をさせたりするなど生徒の思考と産出を促す活動を行うことが重量である。

#### 学習形態

- ・言語活動の充実を図るために、デジタル教科書を含めたICTの活用場面を見極め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、1人1台端末を効果的に活用する必要がある。
- ・グループワークやペアワーク、習熟度別指導や個別指導など、生徒の実態に応じて学習形態を工夫し、生徒が自信をもって発話できる環境を整えることが重要である。